

令和6年度明蓬館高等学校学校評価について

国から構造改革特別区域計画の認定を受け川崎町が認可した明蓬館高等学校について学校評価を行いましたので公表いたします。

●根拠法令

構造改革特別区域法12条5項

特区の認定を受けた地方公共団体は学校設置会社の設置する学校の教育、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について、毎年度、評価を行わなければならない。

評価基準

4 = 優れている 3 = 良い 2 = 一部要改善 1 = 要改善

評価項目	評価における観点	評価結果	評価コメント
学校運営体制	教職員の資質・能力の育成	4	スクーリング指導案・ワークシート・単位認定試験等について教科内外でのチェック機能を強化し、教材作成が適切なものとなるようにしている。 支援員・相談員・教員の役割をテーマにした研修会を行い、特別な支援や配慮が求められる生徒をはじめ多様な生徒への関わり方の理解を深めている。 全体研修では、メタバース空間での研修を取り入れ、職員の発表やグループワークなど今後の様々な研修においても新たな形式として活用と発展が期待される。
	生徒指導の状況	3	全国各地のSNEC・STECでは、心理・発達検査実施体制を整備し、福祉系支援員、心理職の常時配置を実施している。個別指導支援計画の運用を義務化しており、生徒指導についてきめ細やかな対応を行っている。 また、二次・三次障害に着目し、他者との対人関係スキル、身辺自立スキル、生活スキルなどの習得についても支援と伴走をしている。 安宅本校では、各学期で「全員三者面談」を行い、生徒の学習状況、生活状況を保護者・教員で共有し、スクール生・ネット生共に進級卒業へ向けて指導体制を整えている。
	地域との連携	4	地域との交流を大切にし、地元神社の大掃除をはじめとするボランティア活動や地域住民を文化祭へ招待する取組みを通して地域に密着した活動を行っている。 本年は開校15周年記念行事として地域の課題である獣害被害への向き合い方について、川崎町長・町猟友会・生徒によるシンポジウムを開催した。 地元との交流を深め地域を基盤とする学校づくりを全国のサポート校にも広げている。

施設・設備の状況	教室等の設置状況	3	毎日本校へ登校するスクール生について、パソコン室での学習をスクールコース（10時から15時）、ネットコース（15時から17時）と設定し分散登校させることで教室を有効に使用している。 個別学習が出来るスペースを設けるなどし教育活動に支障が生じないようにしている。
学習指導の状況	授業の状況	3	オンラインでのネット授業の充実に注力し、書字障害をはじめとした困難を抱えた生徒が集中できる学習環境の改善を図っている。 スモールステップの生徒に向けた課題づくりを試行しながら進めている。
	適切な面接指導の実施	2	事前に保健調査を行い、嗜好・食事・宿泊環境・移動にいたるまで最善の注意を図り、トラベルナースや学校医との連携を密にし、不足の事態に備えた体制づくりを強化した。 限られた時間で適切な面接指導が行えるように十分にスケジュールを検討している。 面接指導は本校ではなく町内の各施設を借用し実施されているが、スクーリング時期に長期に渡って施設利用をするため、一般の利用者との折衝が課題となっている。
	課題を抱える生徒への対応	4	本校では課題を抱える生徒について、関係機関と連携を取りながら支援を行っている。 全国のSNEC、STECに専門の支援員、心理士が常駐し、個別教育支援計画書を作成し、個に応じた対応と適切な合理的配慮を行っている。保護者や関係機関との連携を深め、あらかじめ起こりうる問題行動を想定し、予防・対応の方法を決めて運用している。
	学校経営の安定性	3	物価高騰の影響もあり、学費の値上げを実施したが、入学者は過去最高の362名になり各地での評価の高さが見受けられた。 直営校・サポート校ともに全国に分散しているため、ニーズを見極めながら、今後も各種法令等を遵守した安定的な学校経営を目指し持続性を高めていく必要がある。

学校設置会社の 経営状況	学校設置による経済的効果	4	<p>生徒在籍数増加により、スクーリングへの随行スタッフも増加している。そのため、実施に関連した施設利用や各種発注などによる特区内での消費支出も増加しており、経済波及効果は上がっていると考えられる。</p> <p>本年度は、町在住の教員OBをスクーリングスタッフとして雇用することができ地域雇用の創出も果たしている。</p>
	学校設置による社会的効果	4	<p>元々高校がなかった町内に明蓬館高校が誕生し15年の節目を迎え、子育て世帯の中でも地元の通信制高校としてのイメージが定着している。そのため、中学生の進路の選択肢としても評価されており、近隣自治体からも毎年多くの生徒が進学するなど広域的に認知度が高まっている。</p> <p>特性や課題を抱える児童・生徒は年々増加傾向にあり、地元を離れることなく、生徒の個に応じた支援による学習が可能な学校として今後も持続した学校運営を期待する。</p>